

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

保育園番号	66-0497
園名	めぐみ第一保育園

### 1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

季節の自然物に触れて、気づきや発見を楽しむ。

〈テーマの設定理由〉

日頃より園庭や散歩先で、落ち葉や木の実などの自然物を集めたり、ままごと遊びに取り入れたりする姿が多く見られている。

また、保育園が自然豊かな環境にあることから、身近な自然に親しみながら、秋ならではの自然物に触れることで、季節の移り変わりを感じたり、自然への関心を深めたりしていくことをねらいとして本テーマを設定した。

### 2. 活動のスケジュール

10月

- ・自然物拾い（どんぐり）
- ・自然物の観察と友だちや保育者との共有
- ・活動の様子をドキュメンテーションとして掲示
- ・集めたどんぐりを遊びの中で自由に触れたり、観察できるコーナーを設置する

11月

- ・まつぼっくり拾い
- ・園内研修にて職員へ活動内容を共有

12月

- ・散歩に出かけ、どんぐり・まつぼっくり拾い
- ・松ぼっくりを使ったままごとや砂場遊び

1月

- ・集めたどんぐり、松ぼっくりで砂場遊びを楽しむ。

2月

- ・公園で松ぼっくり拾い。観察、収集を楽しむ。
- ・室内で自然物に自由に触れることを楽しむ。

### 3. 探求活動の実践

#### 〈活動の内容〉

- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【素材・道具】

- ・ ビニール袋（自然物採集用）
- ・ 白画用紙で作った観察テーブル
- ・ 写真記録用のカメラ

#### 【環境設定】

- ・ 自然物が多く見られる散歩コースを事前に確認した
- ・ 季節の歌や自然にまつわる絵本の読み聞かせを行い、興味関心を高めた
- ・ 集めた自然物を見やすく並べられるよう、白い画用紙の観察台を設置した
- ・ 拾った自然物を室内でも自由に触れるコーナーを設置した

#### 【探究活動の実践】

散歩や園庭でどんぐりや松ぼっくりを見つけると、子どもたちは大きさや形の違いに気づきながら拾い集めていた。

散歩道では、どんぐりがたくさん落ちている場所を事前にリサーチし、散歩の際に子どもたちと一緒にどんぐり採集をする時間を設けた。子どもたちはどんぐりを見つけると「大きいどんぐり!」「ながいどんぐり!」「ちっちゃーい!」などと発見を喜び、保育者や友達同士で見せ合いながら楽しんでいた。

また、友達が見つけたどんぐりを見て「同じのほしい」と探す姿も見られ、自然物に興味を持ちながら友達と関わって遊ぶ様子が見られた。自然に触れる経験を通して、形や大きさの違いに気付くなど、子どもたちなりに発見を楽しんでいる姿が印象的だった。

登園の際にどんぐりを持ってきている児がおり、その姿を見て「触ってみたい」「見てみたい」と興味を示す子の姿が見られた。そこで、子どもたちが散歩で集めたどんぐりを室内でも自由に触れて遊べるようにすると、並べて比べたり手に取って眺めたりする姿が見られるようになった。

室内で自由触れられるようにしたことで、スプーンに乗せて転がしたり、フライパンに入れて「いっぱい!」と料理に見立てたりするなど、遊びへと自然に広がっていった。チェーリングと組み合わせで料理を作る姿もあり、素材を組み合わせで試す様子が見られた。

また、

「おんなじのあるよー」

「一緒だよこれ」

と比べる姿や、小さい・大きいを教え合う姿もあり、自然物を通して子ども同士の関わりが生まれていた。

一方で、

「虫が出てきちゃうから怖い」

「ちょっと触ってもいい?」

と慎重な姿も見られ、安心できる距離から観察する様子もあった。

どんぐりをじっと見つめながら、

「ここが痛いから」（先端を指さして）

「みて、割れてる！」

と細部に気づく姿も見られた。

さらに、

「どんぐりの種は食べれるの？」

「寝てるから帽子かぶってるのかな？」

と想像を広げる発言もあり、見た目だけでなく意味づけをしようとする姿がうかがえた。

戸外だけでなく、室内や園庭遊びにも自然物を取り入れることで、子どもたちが繰り返し触れ、比べ、試す経験につながっていった。

その後も子どもたちから

「松ぼっくりほしい！」

「どんぐり拾いに行きたい！」

といった声が聞かれるようになり、散歩の際には子どもたちの興味に合わせて自然物採集を行うようになった。散歩先では地面をよく見ながら松ぼっくりやどんぐりを探す姿が見られ、見つけると嬉しそうに友達や保育者に見せる様子があった。

また、登園の際にも保護者と一緒に登園道で松ぼっくりやどんぐりを見つけて拾ってくる姿が見られ、

「見つけたよ！」

「いっぱいあった！」

などと嬉しそうに見せてくれる姿もあった。園外活動だけでなく、日常生活の中でも自然物に目を向ける姿が見られるようになった。

さらに、集めた松ぼっくりやどんぐりをきっかけに、それらにちなんだ歌や絵本に触れる機会を設けると、子どもたちは自然物と結びつけながら興味を持って見る姿が見られた。歌を口ずさんだり、絵本の中のどんぐりや松ぼっくりを指さして知らせたりするなど、自然物への関心がさらに広がっていった。

このように、自然物に触れる経験を繰り返し取り入れることで、子どもたちの興味や関心が継続し、気づきや発見を楽しむ姿へとつながっていった。



どんぐり採集の様子



どんぐり観察の様子



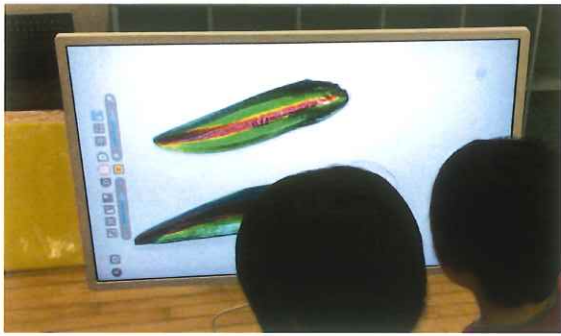
室内にどんぐりを自由に触れるスペースを設置



松ぼっくり拾い、観察



松ぼっくりを使った遊び



電子顕微鏡、電子黒板を使用した虫や花の観察も行った。

#### 4. 振り返り

自然物との関わりを通して、子どもたちは大きさや形の違いに気づき、比べたり想像したりする姿が増えていった。どんぐりや松ぼっくりを拾う活動の中で、「大きい」「小さい」「同じ」などの気づきを友だちや保育者と共有する様子が見られ、自然物を通じた関わりが広がっていった。

また、拾った自然物を室内遊びや園庭遊びにも取り入れることで、その場だけの体験で終わるのではなく、遊びの中で繰り返し楽しむ姿が見られた。どんぐりを料理に見立てたり、松ぼっくりを砂場遊びの中で使ったりするなど、子どもたちなりに自然物を遊びに取り入れて楽しむ姿が見られた。

さらに活動を重ねる中で、「松ぼっくり拾いに行きたい」「どんぐりほしい」などの声も聞かれるようになり、子どもたち自身が自然物に興味を持ち、主体的に関わろうとする姿も見られた。登園時に道で見つけたどんぐりや松ぼっくりを拾ってきて見せてくれる姿もあり、自然物への関心が園外での生活にも広がっていることが感じられた。

子ども同士で教え合う姿や、気づきを言葉にする姿も見られ、自然物を通して関わりや思考が広がっていったと感じている。

今後も、子どもたちの発見やつぶやきを大切にしながら、自然との関わりを継続していきたい。また、自然物の細かい部分に関心を示す姿も見られたため、拡大して観察できる機器などがあれば、子どもたち同士で発見を共有したり、さらに気づきが深まるのではないかと感じた。